展示に求められる柔軟さ

一橋大学附属図書館研究開発室

福田　名津子

当館展示の歴史

- 1955年　創立80周年記念展示
- 1960年　創立85周年記念展示
- 1975年　創立100周年記念展示
- 2001年　旧事務室を改装し、「公開展示室」を開設
- 2015年　窓を塞ぎ、後方に展示準備室を備える改修を経て、「図書館展示室」がリニューアルオープン

年間展示スケジュール

時期	期間	種類	展示資料	室内管理
5月上旬～中旬	1日	ホームカミングデー記念展示	大学史資料、貴重資料	有人
5月中旬～下旬	2週間	日・EUフレンドシップウィーク展示	一般資料、パネル	無人
8月上旬	1日	オープンキャンパス記念展示	大学史資料、貴重資料	有人
11月	4週間	企画展示	貴重資料	有人
冬季	ー	常設展示替え	一般資料	無人

「貴重資料」 和は1868年以前、洋は1850年以前、漢は1644年以前

→ 展示する機会を限定
→ 室内管理者が常駐

施設・設備

- 床面積：81㎡（11.1m × 7.3m）
- 照明：LEDダウンライト×20

  （電球色 3000K, 演色性 Ra85, 5～100%連続調光式型）

  LEDスポットライト×12

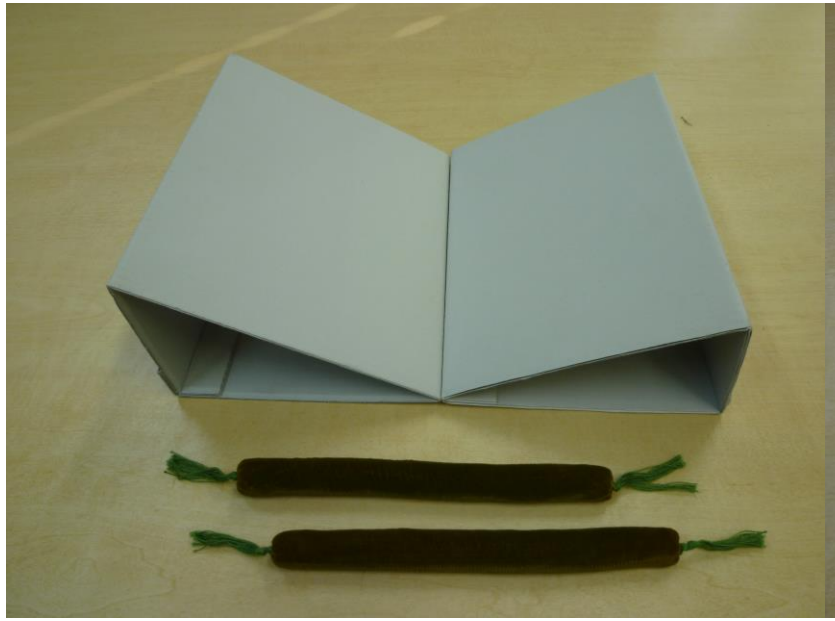
  （電球色 4000K, 演色性 Ra85, ディフュージョンフィルタ付き）
- 空調：温湿度とも制御可能だが、開室時のみ

展示道具

＊ 岡本幸治「 西洋古典資料の組織的保存のために」
『 一橋大学社会科学古典資料センター Study Series』
Vol. 64（2010）、27-29頁。

展示ケース内、資料に触れるもの

- 書見台（中性紙ボードの直角三角柱型×2、岡本幸治監修・本学工房作製＊ ）
- ペーパーウェイト（ベルベット製スネーク型）
- 展示補助テープ（ポリエステルフィルムを輪にしてページを固定、接着剤なし）
- 調湿剤（カセット型）

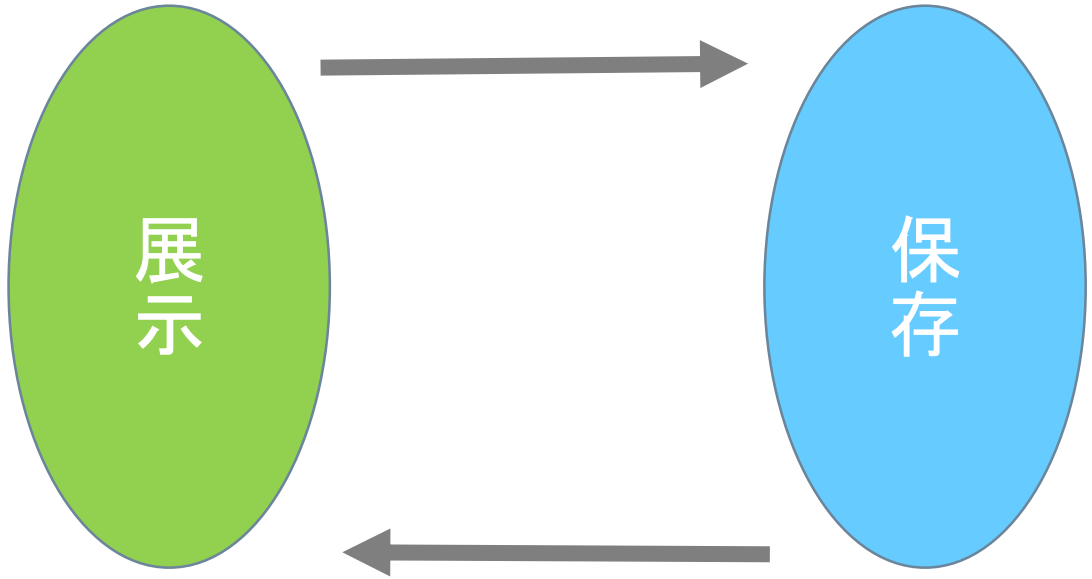


【画像左】書見台および
ペーパーウェイト

【画像右】調湿剤

展示と保存：理論

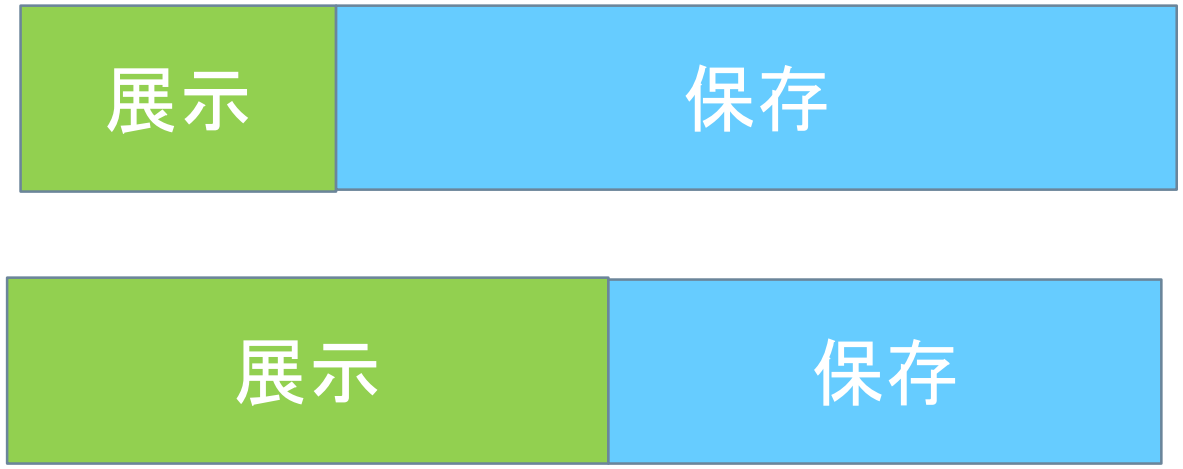
・サイクル説



理想であり常識

具体的行動基準につながりにくい一面も

・バランス説



展示と保存の対立局面を認める
極論は避けたいが、両者のバランスを意識し
設定せざるをえない

展示と保存：実践

- 開催する展示の類型化を図り、見合う展示条件を決めておく
- 理論だけでなく、展示技法・保存技術とも発展するので、勉強を怠らない
- 技法・技術の発展次第で、展示条件に緩和の余地
- 美術館・博物館めぐり、視察調査

展示の変遷：本学の事例１

- 2010年企画展示
- 事務室を改装した影響で、蛍光灯が残る
- すべて手作り

展示の変遷：本学の事例 2

- 2012年企画展示
- はじめてA0パネルを外注
- 蛍光灯は使用せず、スポットライトのみ

展示の変遷：本学の事例 3

- 2015年企画展示（蔵書票）

- 蛍光灯が撤去され、天井灯に
- LED化の徹底により照明の赤みが消えた
- ピクチャーレールが設置され、「吊るす展示」が可能に

- 展示物が図書資料でなく、美術品
- 解説用にトロマットを外注
- 展示ケースは1点のみ
- スツールを設置